

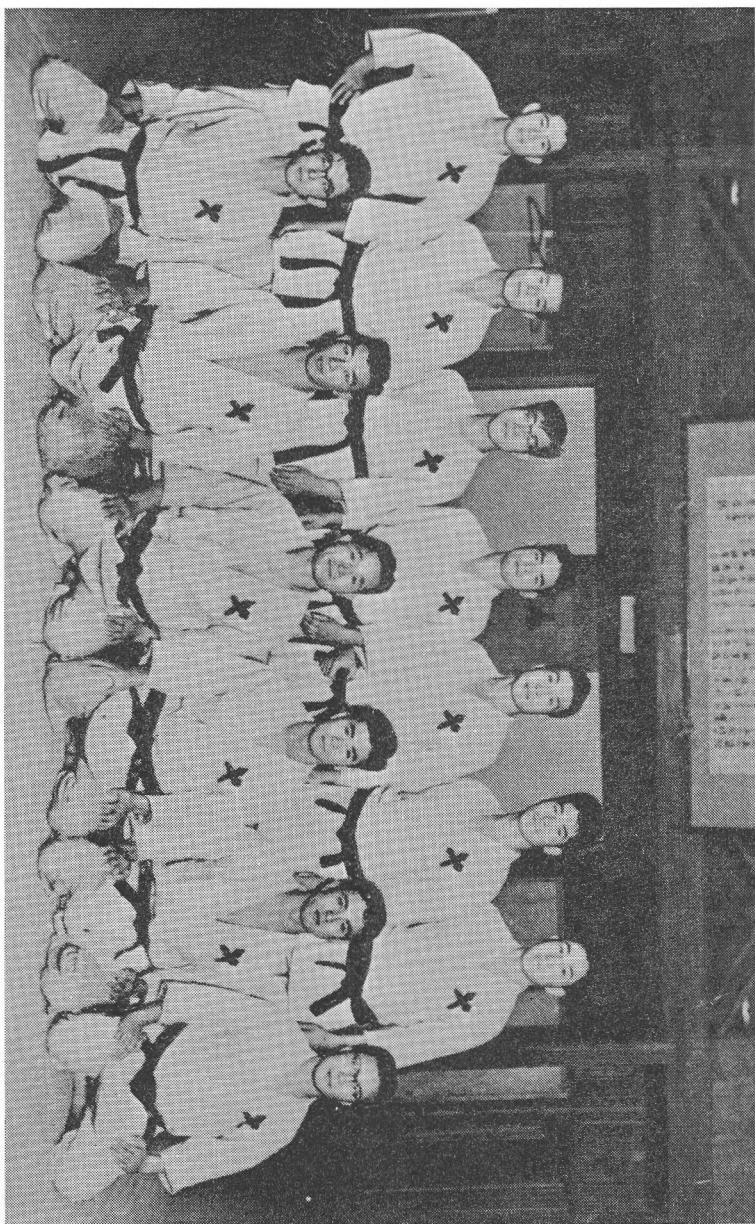
昭和三十二年度

勝つ者常に正し

山際正明

私の年代は当時の各学年の部員数とくらべますと極端に少い方でした。その上お世辞にも精銳揃いと云うことでもありませんでした。しかし皆柔道が好きで愛部心に富んだ素晴らしい仲間の集団でした。その上柔道界に於ける指導者の最高峰である清水正一、朝飛速夫両師範を師と仰ぎ、加えて沢山の優秀な下級生部員に囲まれ、おかげで全日本三位、早慶戦は四人残しと云う早慶戦始って以来の大差と云ふ戦績を残すことが出来ました。この様に私の年代が誠に恵れた部生活を送ることが出来たことに対し改めて年廻わりの幸運さに感謝をしている次第です。

長戸英夫先輩が主将だった前年、私の不覚から全日本への出場を逸したこともあり今年は何としてでも全日本に出場しなくてはと云う責任感を負って年初の合宿より四年生は全員緊張して最終学年のスタートにのぞみ、もし全日本への出場が出来なかつたら責任をとつて全員退部しようと合宿前四年生で話し合つたものでした。当時大学生部員は総数百名を超える盛況でした。幸い全員仲良く一体となつて部生活に打ち込んでくれました。そして初めての公式試合全日本への出場権をかけて悲壮感一杯でのぞんだ東京大会でした。一回戦立教大を6-0、二回戦農大に7-0と完勝し先ず目標の全日本への出場権を獲得した時には四年生一同秘かに胸をなでおろしたものでした。しかし準々決勝の対拓大戦では皆実力が出せず逆に6-0で惨敗を喫しました。その後決意も新たに心機一転全日本に備えての強



昭和三十二年卒業記念

化合宿ののち全日本に出場致しました。この日のオーダーは思い切って一年生を二名起用する等東京大会とはメンバーオーダーを一新してのぞみ、一回戦同志社に4-3の辛勝乍らも二回戦に進出し東京大会の準優勝校中央大と対戦、戦前の予想中央大の圧倒的優勢をくつがえし、新人新原君の先取得点に引き続き中堅福田君の不戦勝、副将小倉君の貴重な優勢勝で勝利を決定づけ続く大将渡辺明治君も見事得意技大外刈で得点を重ね堂々4-1と云う誰もが予想だにしなかつた大差の勝利を収め準決勝に駒を進めました。準決勝は奇しくも宿敵早稲田と相まみえることになりました。塾は秋の早慶戦を意識しすぎたきらいがあり、今一步でした。一方早稲田はこの日迄過去三年間早慶定期戦を始めとして対塾戦での敗戦続きの汚名挽回と誠に激しく闘志を燃やし立ち向つてしまいりました。個々の試合を振り返つて見ますと引き分けた試合は大体は塾が押し気味でしたが、早稲田陣の三宅君、奥村君と云うポイントゲッターに着実に稼がれたことが勝敗の別れ目となり塾は次峰の新人新原君の一勝のみに止まり残念乍ら2-1の一点差で苦敗を喫しました。この試合は早稲田の闘志が塾の実力を封じたと云うところでしょうか。この結果惜しくも決勝進出は果せませんでしたが、しかし常勝軍である全日本屈指の強豪、日、中、明の一角を戦後第六回目の大会に於いて塾が始めて倒し三位に食い込んだこの大会は非常に意義深いものがあったと思います（参考迄に優勝は明治大、二位早稲田、三位は塾と拓大でした）

全日本が終り夏は九州地区へ遠征を行い全福岡に惜敗した他は一応全ての地区で勝利を收めることが出来ました。引き続き十一月の早慶戦を目指し神奈川県警に胸を借りたのを始めとして多くの对外試合を行い強化につとめ愈々メイソイメントである私達四年生にとっては学生生活最後の試合、早慶戦にのぞみました。塾陣は二十五名の出場選手中、武段は僅か一名、残りは参段、四段で固めると云う少くとも戦後の早慶戦のオーダーでは一番充実した層の厚い布陣でした。試合内容も各人夫々が自己の持場を良く心得て、一人抜いては確実に次は引分けると云う理想の試合運

びで進み中盤では早くも六人差と云う絶対有利な形勢になりました。後半早稲田の一年生乍ら三将の奥村君に二人抜かれましたが四人目に対戦の阿部大助君が全日本の二の舞を踏むことなく、がつちりと引分け、副将の坂元君と対戦の岡本君も同君獨得の忍耐強さを如何なく發揮全く危げなく引分け、早稲田の大将三宅君と対戦の石田君も昨年の早慶戦の雪辱を期せんものと闘志をむき出しに試合時間十分間むしろ優勢に試合を進め堂々と引分けて早慶戦始って以来四人残しと云う結果で無事勝利を飾ることが出来ました。

この様に前述もしました通り私の年代は誠に恵れた年でありましたが、これは永年、清水、朝飛両師範の厳しい中にもわけへだてのない暖かい指導の結果がこの年の試合に表われたのであろうと私は今でもそう思つて居ります。清水師範が常日頃私達おっしゃつて居た言葉「勝つ者常に正し」「立派な試合とは勝つことである」を始めとして、「一人抜いても一人目に負けたら何にもならない、一人目は絶対に引分けよ」と云う指導を部員が良く理解し身につけた結果が特に早慶戦の試合内容となつて表われたと思ひます。

全日本三位、早慶戦四人残しの大勝と云つても私達四年生は、全日本への出場者なし、二十五名の早慶戦出場選手は僅か一名と云うのも亦變った思い出だと思って居ります。

唯私の年代の自慢出来ることは、四年生全員柔道が好きであつたこと、部に対する情熱は一人一人が他の年代の部員に負けないものを持ちつけたこと、その上特に小野喜也君、野村幸司君と云う誠に素晴らしい優秀なマネージャーのおかげで私達は柔道以外に余計な神経をくばる必要が無かつたことが大変に幸いでした。私自身最後の一年間は怪我の為殆んど試合らしい試合も出来ず、唯四年生と云うことから責任感に張詰められた毎日の部生活でしたので早慶戦の最後の試合石田君引分けの鐘を本当にうれしく聞きました。

役員

幹部内幹事	幹事	主幹	監督	師範	部長
幼稚舎監督	普通部監督	中等部監督	高校監督(正)	(副)	

野福橋 渡稲福岡竹 小伊鈴野 小山羽朝 清橋
 村原本辺田田本内倉東木村 野際鳥飛水本
 幸一光明 靖信右英弘一 幸喜正輝速正
 司雄藏治詢与義宣夫人男司也明久夫一孝

寒稽古

一月七日より二十日まで 於 綱町道場

昭和三十二年の寒稽古は一月七日より二十日までの二週間、午前六時より七時まで、清水、朝飛両師範指導のもとに実施された。特に本年は好天気に恵まれ、皆勤者百四十五名にものぼり、成毛、金成両先輩の皆勤指導のほか多数先輩の参加を得て、一月二十日表彰式を行い、阿部英児、吉川太兵衛両先輩寄贈の汁粉会を以つて無事終了した。

精勤証受賞者 鈴木正慶(普通部三年) 薄信興(高一)

渡辺紀久男(高一)

特別賞受賞者 伊端嘉久(幼稚舎四年)

皆勤証受賞者

幼稚舎 朝吹真、伊端嘉久、内海勝彦、尾上晴宣、

金原明彦、斎藤茂一、中須仁文、播本雄二郎

以上八名

普通部 鈴木正慶、稻田陽、友田義輔、岩本謙三、

渡辺正男、小寺基之、中野根一郎、川上文

彦、久保井真一、添野重穂、野口和志、山村

恒夫、見ノ木信、稻田勲、川口善行、斎藤誠

中等部

一以上十六名。

田中直臣、沢田勇次郎、永田武二郎、勝本杉
 雄、伊藤洋平、中川正輝、西島潔、梅田
 弘、宮本定義、鈴木良三、細谷旭、鷺谷光
 一、西川英郎、仙石通泰、斎藤良平、池田東
 彦、野口伊織、小川博正、吉川威男、中野敏
 雄以上二十名。

押切、清水(英)、鈴木、渡辺(雅)、上原、田
 村、山口、吉沢、宇津木、中村、大熊、林、
 堀、清水(徹)、飯野、薄、榎原、松原、植村
 (剛)、植村(健)、阿部(智)、小林、古森、長
 戸、渡辺(紀)、杉浦、川上(隆)、関根、山
 口、森田(浩)、山田(精)、松吉、勝田、四
 方、山田(為)、滝沢(勝)、岡田、浜口、管
 野、若山、田北、佐藤(進)、森永 以上四十
 三名。

九

進級月次試合

一月十九日

岩崎、豊永、渡辺(明)、橋本、大矢、石田、
 佐々木、高田、草野、奥山、谷崎、岩上、川
 上、加藤、内田、平柳、賀谷、岩瀬、西田、
 森田(洋)、堀内、寺田、池上、矢沢、西村、
 大野、山本、萩原 以上五十九名。

先輩

金成禧徵、舛井富士弥、河合靖之、成毛雅
 臣、石渡英二、成毛英臣、井上豊明、乾俊
 夫、富沢英郎、峰岸鎮治、上村昌道、阿部大
 元、大館三郎、内海勝正、鈴木正明、田坂
 昭、高松静男、堀越忠義、照井伊豆、吉川文
 雄、萩原正夫、近田富男、長島慶一、羽鳥輝
 久、内海昭勝、福田与志三郎、笛間猶興、中
 西己代治 以上二十八先輩。

6	5	4	3	2	○	1
岸	斎	小	三	辺	夏	雄
藤	平	辺	渡	夏	雄	
保	誠	一	猛			
行						

引	分	○	大	外	刈
杉	山	○	外	返	背負投
功	功	○	岸	齋	鈴木
一	一	○	岸	藤	基
岩	岩	○	山	誠	之
田	田	○	功	保	
佐	佐	○	行	行	
岡	岡	○			
本	本	○			
城	城	○			
島	島	○			
竹	竹	○			
下	下	○			
福	福	○			
原	原	○			
中	中	○			
西	西	○			
武	武	○			
田	田	○			
松	松	○			

杉	山	功	一	猛	雄
功	功	一	猛	雄	
一	一	○	○	○	
岩	岩	○	○	○	
田	田	○	○	○	
佐	佐	○	○	○	
岡	岡	○	○	○	
本	本	○	○	○	
城	城	○	○	○	
島	島	○	○	○	
竹	竹	○	○	○	
下	下	○	○	○	
福	福	○	○	○	
原	原	○	○	○	
中	中	○	○	○	
西	西	○	○	○	
武	武	○	○	○	
田	田	○	○	○	
松	松	○	○	○	

七

6 5 4 3 2 1 級
○ 勝仙沢閔細沢
田 石田根谷田
祥通勇治
三泰郎修旭郎

背負
袈裟
送襟
固
引
體
引
落
分

13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 級
○ 田貝野野稻小森池永西中久保
ノ木口口田川田岡沢野井
和博靖東俊史恵真
坦信志勵正孝彦昭郎雅一

体合優大體釣引引引引
落技勢外落腰分分分技分分分

7 級
杉山功一
袈裟固

福○○勝仙沢○閔細
沢田石田根谷
左祥通勇治
内三泰郎修旭

○○駒田貝山添野稻小森池永西中
崎北木村野口田川田岡沢野
尚恒重和博靖東俊史恵
巳坦信夫穂志勵正孝彦昭郎雅

○久保井真一

丙

8 7 6 5 4 3 2 1 組
○ 中管岡山武竹竹山
村野田田田沢沢田
重為安述為
之任茂和民史和

合引釣大引引返引
技分外刃分分技分

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 級
○ 小宮宮中梅梅鷺川勝
寺本本川田田田谷上田
基定正光文祥
之義輝弘彦三

優払移釣大引
勢卷返腰分外刃外落
分分分分

合背
負投

西中管岡山武滝竹
村野田田田沢沢
秀重為安勝述
昭之任茂和民博史

○○松小西宮中赤山梅鷺川
吉寺島本川司田田谷上
省基定正新精光文
三之潔義輝一弘一彦

鈴齋
木藤良平
三平

四

五

乙

5 4 3 2 1	○ 級	6 5 4 3 2 1	○ 級	6 5 4 3 2 1	○ 組	10 9	○ 中
関 飯 飯 友 友		松 岩 渡 大 久 稲 渡		森 安 四 長 谷 大			
根 山 野 田 田		原 本 辺 保 田 辺		田 藤 方 川 野			
隆 俊 紀 義		軍 謙 正 一 正		浩 大 雄 信			
範 猛 夫 輔		次 三 男 清 陽 男		典 助 滿 一 彦			

引 分	崩 分	引 分	優 分	大 分	外 分	刈 分	引 分	体 分	内 分	股 分	卷 分	込 分	腰 分	優 分	引 分	引 分	優 分	送 繼	優 分

○ 佐 関 飯 鈴	○ 友 松 岩 渡 ○ 大 久 稲	○ 山 森 安 四 長 谷 山	○ 大 森 永 信 為 彦 隆
藤 根 山 野 木	田 原 本 辺 保 田	本 田 藤 方 川 口	本 田 藤 方 川 口
隆 俊 紀 正	義 軍 謙 正 一	隆 浩 大 雄	隆 浩 大 雄
進 範 猛 夫 廉	輔 次 三 男 清 陽	章 典 助 滿 一 洋	章 典 助 滿 一 洋

選手 受賞者 也、 久木 誠、 小高 登志、 鈴木 英一	功勞賞 受賞者 也、 木村 洋、 長戸 英夫、 飯塚 国基、 久保 雅義、 広瀬 久	体育会功勞賞 選手 受賞者 長戸 英夫、 飯塚 国基、 久保 雅義、 広瀬 久	審 査 3 級	三 級	甲 組
宮 吉 吉 ○ 吉 本 田 田 田 口 一 郎 滋 稔 野 口	吉 吉 ○ 吉 田 田 田 口 紘 善 行 山 村 村	宮 吉 吉 ○ 吉 本 田 田 田 口 紘 善 行 山 村 村	3 2 1 級	3 2 1 級	3 ○ 佐 長 佐
磯 口 村 口 善 行 久 保 井 久 保 井	磯 口 村 口 善 行 久 保 井 久 保 井	磯 口 村 口 善 行 久 保 井 久 保 井	渡 川 長 辺 上 井 佐 紀 久 三 武 佐 久 保 井 真 一	渡 川 長 辺 上 井 佐 紀 久 三 武 佐 久 保 井 真 一	井 藤 藤 佐
川 口 武 彦 進 赤 渡 川 上 穗 边 纪 久 守 三 三	川 口 武 彦 進 赤 渡 川 上 穗 边 纪 久 守 三 三	川 口 武 彦 進 赤 渡 川 上 穗 边 纪 久 守 三 三	引 分 引 分 引 分 引 分	引 分 引 分 引 分 引 分	巴 優 背 投 勢 投
薄 吉 沢 長 井 武 誠 正 纪 久 守 三 敏	薄 吉 沢 長 井 武 誠 正 纪 久 守 三 敏	薄 吉 沢 長 井 武 誠 正 纪 久 守 三 敏			

春季強化合宿（大学）

三月二十四日から四月三日まで 於 綱町道場
新入生を迎えての全員強化合宿。参加者は次の通り八十七名という盛況で道場が一杯で寝る場所がない騒ぎであった。合宿中は清水、朝飛両師範の指導の下、午前、午後と稽古を行い、又多数先輩が陣中見舞、稽古に来場された。

四年 山際正明、鈴木一男、伊藤弘人、堀恒寿、野村幸司、小野喜也、鈴木正衛、齊地信大、石原康弘、峰岸輝夫、工恵史郎、酒井暎彦、安田譲、頭山統一
三年 福田靖与、竹内右宣、稻田詢、伊藤照彦、城島徹之祐、星野敬、鈴木正毅、岡本信義、竹下武比古、木下健、佐藤尚里、奥田清一、松吉賢三、河端孝充、福原一雄、博田裕久、中西道明、森下之雄、若林良和、島田章平、小倉英夫

頬道、賀谷恒夫、森田洋典、本重榮一、大野信彦
一年 押切忠義、清水英範、太田桂吉、上原惟道、今城

伝、渡辺雅和、津隈良平、田村泰男、山口慎吉、長井

武彦、曾根功、吉沢誠敏、原田進、石塚彰克、中村重文、岩倉範行、宇津木繁、渡辺東洋、広瀬嘉嗣、市橋英児、山中昭彦、早川鉄三、齊秀一郎、佐藤紘、新原武文、南健雄 以上八十七名。

進級月次試合

四月二十日

八									九								
3	2	1	級	8	7	6	5	4	3	2	1	級	三	辺	夏	雄	
駒	鈴	林	河	河	河	小	東	鈴	木	吉	田	三	辺	夏	雄	以上八十七名。	
崎	崎	木	合	合	合	平	条	木	征	滋	激	新	原	武	文	南	
尚	基	洋	秀			正	征		彦	彦	滋	新	原	武	文	南	
已	之	一	郎			猛	彦	彦	彦	彦	滋	新	原	武	文	南	
体	落	大	内	刈	製	製	固	引	分	引	分	引	分	引	分	引	分
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
吉	中	駒	林	鈴	河	小	東	鈴	木	吉	田	新	原	武	文	南	新
田	野	崎	木	木	木	合	条	木	征	彦	彦	新	原	武	文	南	新
惠	尚	基	洋	秀		正	征		彦	彦	彦	新	原	武	文	南	新
稔	雅	之	一	郎		猛	彦	彦	彦	彦	滋	新	原	武	文	南	新

丙

六

七

組	7	6	5	4	3	2	1	級	6	5	4	3	2	1	級	7	6	5	4
宮伊	田	田	田	野	峰	峰	峰	級	峰	峰	大	福	関	若	山	吉	吉	吉	
本藤	北	北	北	口	岸	岸	岸		岸	岸	島	沢	根	山	崎	田	田	田	
一幹				和	保				保	拓	左	邦			健				
郎夫				坦	志				夫	夫	太	郎	内	修	絃	次			稔

横 扱	引 優 大 合	引 優 大	大 外 刈	大 外 刈	大 外 刈	大 外 刈	大 外 刈	大 内 刈	体 落	引 分	大 外 刈	大 外 刈
四 方 腰	分 勢 内 刈	分 技	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢	分 勢

○ ○ 梅 宮	勝 貝 斎 田	野 稲 仙	○ 添 山 峰 大 福 関	○ 水 山 斎 池
澤 本	田 木 藤 北 口	田 石	野 村 岸 島 沢 根	岡 崎 藤 田
一 祥	良 和 通		重 恒 保 拓 左	俊 健 誠 明
潤 郎	三 信 平 坦 志 励 泰		穂 夫 夫 郎 内 修	昭 次 一 彦

乙

五

組	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	級	4	3
滝 岡	○ ○ 岡 岡 安 安 下 下	○ ○ 岡 岡 安 安 下 下	下	下	白 大 久 梅	山 保 田 田	小 田 寺 野	中 野 田	中 武		浜 梅		
沢 田	田 田 田 藤 藤 村 村		村 村 川 保 田 田	寺 野 田							口 沢		
勝 博	大 茂 助 裕		裕 一 清 弘 一 之	根 郎 民							謙 藏 潤		

大 外 刈	引 大 外 刈	大 外 刈	小 外 刈	優 勢	合 技	大 内 返	小 内 刈	引 分	引 分	優 勢	優 勢	引 分	合 技	大 外 刈

○ 松 滝 山 長 岡 渡 安 森	○ 西 中 下 白 大 久 梅	○ 紹 宮 中 小 宮	○ 武 浜
尾 沢 田 川 田 辺 藤 永	島 川 村 川 保 田 田	寺 本 野	田 口
隆 勝 為 雄 照 大 為	正 一 精 基 定	根 郎	安 謙
介 博 和 一 茂 男 助 隆	潔 輝 裕 一 清 弘 一 之	義 郎	民 藏

—

甲

四

2 1 ○ 級 11 10 9 8 7 6 5 4 3 ○ 2 1 組 7 6 5 ○ 4 3 2 ○ 渡 級
○ 桧 原 野 中 宮 売 石 山 安 宏 太 太 岩 松 松 永 渡 松

森 森 岸 封 中 津 津 赤 石 山 奥 奥 大 人
田 田 田 口 村 木 穂 塚 口 田 田 野 野
浩 宏 重 正 彰 信 謙 軍 武 一 郎 芳 隆
典 進 水 之 繁 守 克 洋 讓 彦 三 次 和 介

私	架設固	引	引分	釣込腰	釣込腰	釣込腰
腰	釣込腰	引	優勢	釣込腰	釣込腰	釣込腰
送標紋	引	分	引分	送標紋	送標紋	送標紋
送標紋	引	分	引分	送標紋	送標紋	送標紋
送標紋	引	分	引分	送標紋	送標紋	送標紋

佐 鈴 森 原 野 中 宇 赤 石 山 四 安 四 友 岩 稻 松 永 渡 渡 辺 波
藤 木 田 田 口 村 津 穂 塚 口 方 田 方 田 本 田 原 田 武 正 芳
正 浩 宏 重 正 彰 典 進 水 之 繁 守 克 洋 瀧 讓 滿 輔 三 陽 次 男 和
進 廉

春季大会

七

1

引合 分技 吉永公雄 野田謙一 崩上四方 引分 分引 優勢 分優勢

小田峰齋 池仙福 ○ ○ ○ 沢西村 村中池 池池 鈴滝 中中
 金北岸藤田石沢沢沢沢田川上上野田田木沢山山
 (勝田抜群勇退) 保良東通 左勇治 恵 明基縁
 坦夫平彦泰 内郎 忠雅 彦之郎
 背負投 背負投 優勢 優勢 大外刈 大外刈 引落 分引落 体落 分体落 合分落 合引落 合引落
 椎大関若添永永駒山斎東吉吉三鈴
 田田田田田名島根山野岡岡崎崎藤条永永永辺木
 祥拓邦重俊尚健誠正 夏
 三徹郎修絃穂昭巳次一彦 雄孝

逸森 大 大 中梅 梅 梅 梅 西 中西 西 梅 梅 梅 梅 輸遠大小
 見永保 久 久 保 保 野田田田島川松松沢沢沢沢沢達藤野島
 為 一 根 正 克 久 紀 廉
 勉隆 清 郎 弘潔輝 朗 潤和雄 三

合引引 大外刈 関節技 引引 体体釣銳合合肩背痛背合大外刈釣引
 技分分 割技 分分 落落 腰固技技 大内返固投勝技分

○下山川 小宮 小西 渡堀野野野宮宮伊森中野野野貝ノ木
 村田上寺本原松村辺池田田田本本藤川沢口口口口
 精文基定 照喜一嘉 和
 裕一彦文義 男郎 定 忠 志信

佐佐佐赤石野中山中松松松渡永松松岡岡浜
 藤藤藤穗塚口村口西原原原原辺田吉吉吉田田田口
 正彰宏重 軍芳武省謙
 進守克水之洋 次和郎三茂藏

内体送袈裟優縫引小肩合大体優合引引送跳優引払大内刈
 股落絞固勢四方分内刈固技技落勢技分分腰勢分腰内刈

○原大四安安友友友友飯渡稻長松○武滝山土下下
 田野方藤藤藤田田田田山辺田川尾尾田田沢中屋村村
 信 大 義俊正雄 隆勝昭欣
 進彦満 助 輔猛男陽一介 博彦司

		初段の部	大将
長長津伊勢曾曾渡	先鋒	山杉川長森森飯	
戸戸隈村根根辺紅		口浦上井井田田野	
和良	紀久男	慎隆武浩紀	
夫平勲	功	吉潤三彦典夫	
釣優腰勢	小外刈分	大外刈引分	
達引腰	釣達腰股	引足送	
腰引分	内股分	送襟絞	
勢	横四方	内股腰股	
○西田古安安川井本清白	先鋒	○會清薄関山山安原	
田村橋井井崎上多水白		根水辺根根本本田田	
悦泰銑		紀信隆	
康男治	滿徹	功徹興	
勲	勲	範章譲	

二段以上の部

○ 大堀 小小 熊 林林 紅	先鋒○ 大将	池工矢林大堀 <small>○ ○ ○ ○</small> 上恵沢 熊林林岡岡岡岡	永永永永 原森森森	楠古 秀孝義
国為 浩	壮史頼政國為	浩	一	昭至切久切
之義一 初切初	郎道宏義切切	一切	大内足返 内返足返	体優勢 優勢引分
釣内内 込股股	釣込腰	大内返 内返足返	一本背負	背負投
先鋒○ 鈴鈴森白	大将	賀佐鈴河福上太西		
木木木田 洋		谷藤木木端原原原原 恒	孝一	惟桂
孝典切 (2)		夫切切	充雄切切	道吉切

○ 鈴松星木植植 木吉野下村村	○ 堀加押川川 藤切上上地山山瀬瀬	○ 齊奥岩岩池池 上上山山瀬瀬上上	○ 池工工矢林大 上上澤熊
賢文	順忠堅清安	壯一郎切	惠史郎切政
三敬雄 (3)(3)(2)	介義吉 (2)(2)(2)	明正切 (2)	道宏切 (2)
小内刈 体落分	引大外刈 横四方	引大外返 送襟綾	縫四方 大外刈 支釣足
引大外刈 横四方	優勢 勢	優勢 返	横四方 内刈 引分

○○ 広広石石齊佐佐 瀬瀬田田木木藤藤	○○ 近近津津谷谷平清清 田田崎柳野野内水水	○○ 堀堀清清阿阿 仁(2)義太郎(2)英智 仁(2)範(2)
嘉勝秀 嗣克郎 (3)(3)(3)	真恭 郎敏 (3)(2)	順孝邦 造太郎生(2) (2)(2)(2)

大會への出場権を獲得した。	本塾高校Aチームがブロック優勝し昨年は逸した関東	第五回関東高等学校柔道大会神奈川県予選 五月十九日於 神奈川県厚木高校体育館	大將	○山	○城	○城	○高	○稻	○稻	伊	伊	内
			鈴	竹	島	城	高	田	稻	岡	藤	田
			際	木	島	島	田	田	稻	東	本	藤
			正一	右靖	島	島	島	田	稻	伊	伊	照
			明(4)	男(4)	内(4)	田(3)	田(3)	田(3)	人(3)	弘(3)	彦(3)	恭弘(3)
			引	優	大外	引	引	小内	内股	返	支釣	引
			分	勢	卷込	分	分	刈	外返	足	釣込	分
			大將	○渡	檜	橋	○豊	阿	○大	南	新	○渡
			小倉	辺	山	本	永	永	部	矢	佐藤	市廣瀬
			英	明	光	大	忠	健	矢	原	原	渡辺橋英
			夫(4)	治(4)	治(3)	藏(3)	勝(3)	助(3)	史(3)	雄(3)	紘(3)	文(3)

		第一回戦				第二回戦				Aチーム(Cブロック)			
		慶應高校				鎌倉学園				平塚農高			
大將	○阿	先鋒	○植	大將	○阿	先鋒	○植	大將	○阿	先鋒	○植	村	慶應高校
○	○	○林	○林	○	○林	○	○林	○	○	○	○林	健次郎	鎌倉学園
小	植	村(剛)	村(剛)	小	村(健)	小	村(健)	小	阿	小	阿	政宏	平塚農高
部	林	慶應高校	慶應高校	部	慶應高校	部	慶應高校	部	阿	林	阿	剛太郎	Aチーム(Cブロック)
大將	○阿	先鋒	○植	大將	○阿	先鋒	○植	大將	○阿	先鋒	○植	村	慶應高校
○	○	○林	○林	○	○林	○	○林	○	○	○	○林	健次郎	鎌倉学園
小	植	村(剛)	村(剛)	小	村(健)	小	村(健)	小	阿	小	阿	政宏	平塚農高
横四方	優勢	5	—	5	—	5	—	5	—	5	—	0	0
横四方	優勢	横四方	体落	釣込腰	優勢	大外刈	合技	松腰	縦四方	上四方	大外刈	縦四方	0
大將	新堀	加々宮	笠間	笠井	愛甲農高	鈴木	富田	浜崎	岩巻	上	岩城	田井	平塚農高

		第四回戦		慶応高校		県須高A	
		先鋒	植	村(健)		引	分
○大	○榎	○植	○林	○植	○林	4	—
熊原	森	林	村(剛)	林	村(剛)	—	0
国孝	義	大将	阿	大将	阿	先鋒	
之至	義久	大将	阿部	大将	阿部	前田	
福田	原	先鋒	植	先鋒	植	矢井	
田藤	原	合技	林	引分	林	上野	
工	原	大外刈	村(剛)	大外刈	村(剛)	藤井	
		引分	大将	引分	大将	金	
		大外刈	大將A	大外刈	大將A	斎	
		合技	チム優勝、	合技	チム優勝、	下橋	
			関東大会へ出場決定。			栗田	
						市川	
						塚島	
						本島	
						塚田	
						A	
						Y校	
						A	

		第二回戦		慶応高校		仁義義園大将原田	
		先鋒	古	先鋒	清	上四方	相
○大	○榎	○植	○林	○植	○林	大将	石井
清永	岡原	古	森	古	森	大将	宮崎
野	原	大将	大将	大将	大将	跳腰	合技
		清	原	清	原	優勢	大将
		水	岡	水	岡	優勢	八木
		榎	原	榎	原	背負投	大将
		堀	森	堀	森	背負投	井上
		慶応高校		慶応高校		釣込腰	
						平塚	
						塚高	
						高沢	
						山口	
						塩田	
						中村	
						永井	
						城金	
						本金	
						坂	
						カ	
						丘	
						B	

代表戦

榎原

優勢

○山本

本塾B チーム失格

本塾対東京大学対抗試合（二段以下）
五月二十五日於 東大七德館道場

本塾

先鋒○長
内股引分
釣込腰

井津長

丸小内刈

島中

山尾(2)

大謙(2)

東京大会第一次合宿（大学）

五月十九日（日）～二十六日（日）於 綱町道場

参加者

四段 山際、鈴木（一）、小倉、竹内、渡辺（明）

三段 伊東、福田、稲田、城島、星野、伊藤、鈴木

（正）島田、松吉、檜山、豊永、橋本、阿部、

大矢、石田、佐々木、高田、内田、斉、広瀬、

渡辺（東）、南、佐藤、市橋、新原、岡本

二段 平柳、草野、近藤、津田、谷崎、堀内、小野

初段 石原、岩瀬、野村

段外 山本、石塚

以上四三名

723 昭和32年度

東京大会に備えて第一次合宿に入る。合宿中講道館の紅白試合、二段以下の対東大対抗試合、関東学生段別選手権大会等の試合があり、又、稽古には朝飛先生引率の横浜市警察の選手が数日間参加された他、中野先生、諸先輩も参加され、清水、朝飛両師範の指導の下元気に一週間の合宿を終えた。

出場者

四段

小倉英夫、

渡辺明治

五月二十六日(日)於講道館

東京・関東学生柔道段別選手権大会

大将

草近津平木堀鉢押奥清加岩矢森佐藤

野藤田柳下内木切山水水藤原上澤田藤

孝

引分分分分分分分分分分分分分分分

大将

是花京谷本松(2)安河内(2)坂井(2)秋岡村北阿井(2)荻本島岡部水井(2)水井(2)

三段 福田靖与、大矢忠史
 二段 草野計重、津田順造
 初段 石原康弘、岩瀬安正
 段外 山本隆章、石塚彰克
 成績 四段の部 小倉、渡辺共一、二回戦で敗退
 二段の部 草野準決勝にて山本(明大)優勝者に敗退

第五回関東高等学校柔道大会

六月九日(日)

於甲府市立甲府商業高校体育馆

東京、千葉、埼玉、群馬、茨城、神奈川、山梨、栃木各都県の上位三校計二四校が参加して行われた本大会で本塾高校は決勝戦に進出したが、千葉県第一位の安房一高と対戦、0-2にて敗れ第二位となつた。

第一回戦

慶應高校

3 - 1

(千葉一位)安房水産高

○植林	○植林	先鋒	○植林	先鋒	於
小林	小林	村	村	健次郎	甲府市立甲府商業高校体育馆
浩一	浩一				
引分	引分	大外刈	大外刈	優勢	
加藤	加藤	庄司	庄司	合技	
孝行	孝行	孝信	孝信	先鋒	
(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	

		大將○阿 部智應	合技 大將	
		慶應高校	先鋒植 村(剛)	○小林
第二回戦		慶應高校	植村(剛)	植村(健)
第一回戦	トーナメント 大將○阿 部	○小林	植村(剛)	植村(健)
第一回戦	○小林	植村(剛)	植村(剛)	植村(健)
第二回戦	○林	植村(剛)	植村(剛)	植村(健)
代表戦	○林	植村(剛)	植村(剛)	植村(剛)
先鋒 植 村 (剛)	小林	植 村 (剛)	植 村 (剛)	植 村 (剛)
大將 阿 部	小林	大將 阿 部	大將 阿 部	大將 ○阿 部
内股 優勢 先鋒	5 — 0	優勢	引分 大將	優勢 先鋒○茂木 (群馬一 位)
染木 野村 谷和 寛夫 (2)	茨城一 位 高(2)	田村 興 靖(2)	田村 浩 伸太郎 志(2)	田村 細 田村 浩 伸太郎 志(2)
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校

決勝戦	○小林	○植 村(剛)	私腰	松原淳一
慶應高校	先鋒植 村(剛)	○植 村(剛)	払巻込	金沢良三
慶應高校	先鋒植 村(剛)	引分 大將○鈴木 (千葉一 位)	合技 大將	助川泰(2)
慶應高校	先鋒植 村(剛)	引分 大將○鈴木 (千葉一 位)	先鋒○田 山口昭精一 治(2)	安房高(2)
東京大会第二次合宿(大学)	大將 阿 部	横四方 大將○鈴木	引分 平野昭寿 (2)	清治(2)
参加者	小林	大將 阿 部	引分 平野昭寿 (2)	山口昭精一 治(2)
三年	村幸司	植 村(剛)	大將 ○鈴木	安房高(2)
四年	山際正明、鈴木一男、伊東弘人、小野喜也、野	植 村(剛)	引分 平野昭寿 (2)	清治(2)
二年	小倉英夫、竹内右宜、福田靖与、城島徹之佑、	植 村(剛)	大將 ○鈴木	安房高(2)
一年	伊藤照彦、岡本信義、島田章平	植 村(剛)	大將 ○鈴木	安房高(2)
高田幸人	渡辺明治、豊永勝、檜山治、阿部大助、石	植 村(剛)	引分 平野昭寿 (2)	清治(2)

六月九日(日)~六月十六日(日)於 綱町道場

六月九日(日)~六月十六日(日)於 綱町道場

日課

一、起床 七時半

一、体操

一、朝食 八時十分

一、練習 四時六時

一、夕食 七時

一、門限 九時

一、消燈 九時半

一週間後に迫った東京大会に備え、選手と参段陣を中心
に二十名で合宿に入り、清水師範に試合前の指導を受け
る。

第六回東京学生柔道優勝大会

六月十六日(日)於 東京都体育馆

決勝戦進出を目指し、全選手張切って、立大、農大を
6-0、7-0と一方的に降し、準々決勝戦で拓大と対
戦した。

先鋒の阿部が幸先の良い先取点をあげたにも拘らず、
石田が無理な技をかけてかえって送襟絞に倒れてからズ
ルズルと敗戦をつづけてしまい、平素の精進に似合わぬ
塾らしからぬ試合振りで拓大に破れた。但し、昨年逸し

た全日本大会への出場権は獲得できた。

第一回戦

先鋒○福	田	靖	与(3)	釣込腰	
○高	田	幸	人(3)	跳腰	
○石	田	勝	克(3)	崩袈裟	
○渡	辺	明	治(4)	大外刈	
○小	倉	英	夫(4)	釣込腰	
竹	内	右	宜(4)	横四方	
際	正	明	(4)	引分	
大将○山	本	塾		大将	

第二回戦

先鋒○福	田	靖	与(3)	釣込腰	
○高	田	幸	人(3)	跳腰	
○石	田	勝	克(3)	崩袈裟	
○渡	辺	明	治(4)	大外刈	
○小	倉	英	夫(4)	釣込腰	
竹	内	右	宜(4)	横四方	
際	正	明	(4)	引分	
大将○山	本	塾		大将	

第三回戦(準々決勝戦)		本		塾			
先鋒○阿	大将○山	先鋒○福	田	大内刈	大内刈	7	—
部	○山	○高	田	内股	内股	—	0
大	○竹	○渡	田	松腰	松腰	—	—
助	内(4)	○小	田(3)	上四方	上四方	—	—
(3)	際(4)	○倉(4)	田(3)	横四方	横四方	—	—
優	大将	○邊(4)	田(3)	鈎込腰	鈎込腰	—	—
勢		大将	田(3)	大将	大将	—	—
先		大将	田(3)	大将	大将	—	—
鋒		大将	田(3)	大将	大将	—	—
1	—	大将	田(3)	大将	大将	—	—
—	5	大将	田(3)	大将	大将	—	—
吉	渡	二	松	佐	大	後	立
拓	出	三	井	藤	淵	木	小
田	辺	宮	千	塚	農	森	谷
和	崎	文	敏	雄	忠	暮	原
男	大	國	昭	謙	司	昇	忠
(3)		繁	(2)	(2)	(3)	司	照
		雄	(2)	(2)	(3)	(3)	(3)

五	六	丙
5 4 3 2 1 宮 梅 山 山 川 本 田 田 田 上 定 精 文 東 左 通 忠 義 弘 一 彦 彥 内 泰 宏	6 5 4 3 2 1 級 池 福 福 福 仙 伊 田 沢 沢 沢 石 藤 東 通 忠 忠 謙 紀 一 彦 内 泰 宏 宏 一 雄 郎	7 6 5 4 3 2 1 組 伊 野 野 遠 宮 大 天 島 島 島 島 島 島 島 拓 太 郎 昭 啟
後 裂 裂 體 体 体 股 外 外 大 外 外 股 刈 落 落	大 外 外 引 分 分 背 負 投 體 落 落 裂 固 固 姿 固 固 引 分 分	優 引 引 勢 分 分 大 内 内 返 技 技 合 合 技 裂 固 固 姿 固 固 大 内 内 返 技 技 體 体 体 落 落 落
○ ○ ○ ○ ○ 中 宮 梅 中 山 野 本 田 川 田 根 定 正 精 一 義 弘 輝 一 郎	○ ○ ○ ○ ○ 峰 池 野 田 福 仙 岸 田 口 北 沢 石 保 東 和 左 通 夫 彦 志 坦 内 泰	三 伊 中 野 遠 宮 堀 品 藤 沢 田 藤 本 池 忠 謙 紀 一 喜 一 孜 宏 進 雄 郎 郎

甲

四

乙

1組	7 6 5 4 3 2 1	級	8 7 6 5 4 3 2 1	級	8 7 6
山口洋	勝大永渡渡松松 久田保田辺辺尾尾 祥一武芳正隆 三清郎和男介		○松森土武武 尾永屋田田 隆為欣安雄 介隆司民一雄		○長谷川勝 本寺野野基 杉根之郎
引分	引合引合引合引扒 分技分技分技分腰		扒内横四方 腰股方製盤固	優勢分固勢	引脇優勢 大外刈優勢 大外返
大野信彦	下○勝大永渡渡岩 久村田保田辺辺本 祥一武芳正謙 裕三清郎和男三		○西松森土滝武山 村尾永屋沢田田 秀隆為欣勝安為雄 昭介隆司博民和一	○長谷川勝 本寺鳥基 杉雄之潔	○西小寺鳥基 西本寺鳥基 西本寺鳥基

審

三

普通部・中等部	查	6 5 4 3 2 1	級	12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2	
八級へ編入	友友佐原原原		○野野野石石安安	○石石安安	○大安山
八田忠朗、 平岡裕介	田田藤田田田		口口口塚塚塚塚	田田野藤口	
山田勲	義輔進進		宏水	彰克讓彦助	信大
	優勢送織絞製盤固背負投固技返技		内股大内刈釣込腰外掛巴投	製盤固崩上四方	優勢合技引固分

長井武彦	飯友佐薄鈴	○原田山宇津口村中安石四安
井紀彦	田藤木	○津木村西塚方田野藤
彦夫	信正輔進興慶	隆宏重康彰
		信大進章繁水之真克滿讓彦助

高 校

丙組へ編入 峰岸善助、望月 護、足立慶郎、草場賢雄

乙組へ編入 小金康宏

大 学

丙組へ編入 高井健文、大野孝雄、齊田穂積、西松克郎
乙組へ編入 中村文彰

神奈川県高等学校柔道大会

六月二十三日(日)於 厚木高校体育馆

五一小校七二一チームが出席し、本塾高校A、Bチームの間で覇を争い、Aチームが優勝、神奈川県代表として八月三日天理で開かれる全国大会に出席することとなつた。なお、本塾Bチームは昨年の優勝校で本年も関東大会出場校である日大高A、本年の関東大会出場校である横須賀校を破つての決勝進出で健闘がたたえられる。また本大会に於て植村剛太郎、植村健次郎、古森義久の本塾高校三選手は個人優秀賞を授与された。

Aチーム
三校リーグ戦

先鋒○植 村 健次郎 5 — 0 平沼高 A
脇 固 先鋒 山 本

慶應高校

○小林	○植村(健)	○植村(剛)	○植村(浩一)
先鋒○植 村(健)	大将○阿 部	大将○阿 部	大将○阿 部
慶應高校	○植村(剛)	○植村(剛)	○植村(浩一)
第二回戦	トーナメント	トーナメント	トーナメント
4 横四方	5 横四方	5 横四方	5 横四方
横四方	横四方	横四方	横四方
阿 部	合 技	崩 上四方	送襟絞
小 浜	大 将	崩 上四方	跳 腰
立 野 高	荒 遠 藤	松 蔡 藤	城 東 高 B
	井 藤	沢 藤	神 保 竹 村
		工 B	徳 永
			近 藤
			内 藤
			茂 田
			野 谷
			松

			○植 村(剛)	
			大将 ○ 阿 部 塚 原	内 股 有 井
			釣 込 腰 大 将 相 泽	足 扳 小 泉
		第三回戦	慶 応 高 校	慶 応 高 校
		先 锋 ○ 植 村(健)	先 锋 ○ 植 村(剛)	5 —— 0
		大 将 ○ 阿 部 塚 原	大 将 ○ 阿 部 塚 原	崩 上 四 方 先 锋 岩 上
		○ 植 村(剛)	○ 植 村(剛)	崩 裂 袋 卷
		大 将 ○ 阿 部 塚 原	大 将 ○ 阿 部 塚 原	釣 込 腰 铃 木 铃 木
		○ 植 村(剛)	○ 植 村(剛)	崩 上 四 方 大 将 吉 田 佐 佐 加 藤 成 山 江 田 铃 川 滨 崎
		準決勝戦	慶 応 高 校	慶 応 高 校
		先 锋 ○ 植 村(健)	先 锋 ○ 植 村(剛)	合 技 崩 裂 袋 崩 裂 袋
		○ 植 村(剛)	○ 植 村(剛)	釣 込 腰 大 将 大 将
		○ 植 村(剛)	○ 植 村(剛)	返 技 先 破
		優 势 大 将	優 势 大 将	背 负 投 崩 裂 袋
				釣 込 腰 釣 込 腰
		3 —— 0	5 —— 0	
	横四方			
	優勢			
	先 锋			
		林 堀 古 森	慶 応 高 校 A	鎌 倉 学 園 A
		慶 応 高 校 B		

			B チーム	大 将 ○ 阿 部 塚 原
			三校リーグ	大 将 ○ 阿 部 塚 原
			慶 応 高 校	慶 応 高 校
			先 锋 ○ 古 森 義 久	先 锋 ○ 古 森 義 久
			大 将 ○ 清 野 国 秀 昭	大 将 ○ 清 野 国 秀 昭
			大熊 仁 之	大熊 仁 之
			大 将 ○ 林 岡 政 宏	大 将 ○ 林 岡 政 宏
			不 战 大 将	不 战 大 将
			不 战 胜	不 战 胜
			引 分	引 分
			足 扳	足 扳
			崩 裂 袋	崩 裂 袋
			先 锋	先 锋
			4 —— 0	4 —— 0
			関 学 B	関 学 B
			釣 込 腰 大 将	釣 込 腰 大 将
			大 将 清 野	大 将 清 野
	第二回戦	慶 応 高 校	慶 応 高 校	慶 応 高 校
	先 锋 ○ 古 森	○ 植 村(剛)	先 锋 ○ 古 森 義 久	先 锋 ○ 古 森 義 久
	慶 応 高 校	慶 応 高 校	慶 応 高 校	慶 応 高 核
	2 —— 1	4 —— 1	4 —— 1	4 —— 1
	小 外 刈 先 锋 斎 藤	不 战 大 将 小 川 本 沢 大 泽 沢	不 战 大 将 小 川 本 沢 大 泽 沢	不 战 大 将 小 川 本 沢 大 泽 沢
	横 須 賀 高	優 势 大 将	合 技 崩 裂 袋	合 技 崩 裂 袋

本塾A	チーム	決勝戦	慶應高校B	大將	○林	○堀	先鋒	古	森	慶應高校	大將	○古	森	○林	堀	清	野	慶應高校	大將	○大	熊	永	岡
				大將	清	野	大將	古	森	慶應高校	大將	清	野	大	熊	為	義	慶應高校	大將	○大	熊	永	岡
本塾B	チーム	準決勝戦	慶應高校	大將	○林	○堀	先鋒	古	森	慶應高校	大將	○古	森	○林	堀	清	野	慶應高校	大將	○大	熊	永	岡
				大將	清	野	大將	古	森	慶應高校	大將	清	野	大	熊	為	義	慶應高校	大將	○大	熊	永	岡
第二位	慶應高校A	0	1	合	引	合	崩	上	四方	2	1	合	不	優	引	松	腰	1	3	引	優	引	優勢
				技	分	技	先	鋒		1	1	技	戰	勢	分	腰	先	鋒	1	大	將	矢	部
第一位	慶應高校A	3	0	大將	○中	大	法政二高A	永	早	大	法政二高A	大將	○兵	佐	吉	平	加	藤	1	日	大	高	A
				島	沼	山	永	田	川	島	頭	藤	鳥	島	永	島	吉	藤	A	前	金	井	田

本塾対神奈川警察対抗試合		六月二十四日(月)於 綱町道場		神奈川県警察	
先鋒	○檜 鈴	大將	○小 竹	○高 広	○大 渡
橋 木	本 塾	渡 辺	竹 内	廣 南	矢 東
本 光	正 塾	倉 内	阿 部	瀬 山	忠 洋
藏 (3)	治 (3)	英 右	大 幸	健 光	(3)
引 分	上 四 方	明 宣 (4)	助 (3)	嗣 恭 (3)	弘 強
小 野	野 褐	治 (4)	人 (3)	雄 (3)	優 勢
林 中	中 田	大 (4)	嗣 (3)	治 (3)	大 外 刃
(3)	(2)	鈴 (4)	人 (3)	返 技	引 分
引 分	上 四 方	鉢 (4)	返 (3)	優 勢	先鋒
小 野	野 褐	大 将	大 将	大 将	新 田
林 中	中 田	○荻 岩 (5)	○井 上 (4)	○渡 部 (3)	木 (3)
(3)	(2)	原 (4)	本 (4)	高 前 (3)	高 木 (3)
神奈川警察	六月二十五日(火)於 綱町道場	○井 本 (4)	○橋 金 (3)	○橋 子 (3)	新 田 (3)

勝抜試合

大将 渡 小 ○ 福 ○ 阿 ○ 高 ○ 南 新 広
 辺 倉 田 部 田 原 澄
 明 英 靖 大 幸 健 武 嘉
 治 夫 (4) 与 (3) 助 (3) 人 (3) 雄 (3) 文 (3) 嗣 (3)
 合 技 優 勢 縱 四 方 優 勢 跳 腰 引 分 先 锋 ○ 飯 塚 (3)
 大将 ○ 渡 ○ 江 坂 長 谷 川 佐 藤 (3) 本 (3) 西 (3)
 辺 森 (5) 本 (3)

先 锋 本
 渡 小 竹 ○ 鈴 ○ 島 ○ 南 ○ 高
 辺 倉 木 内 田 田 原 田 原
 明 英 右 一 章 靖 幸 健 幸 人 (3)
 治 夫 (4) 宜 (4) 男 (4) 平 (3) 与 (3) 雄 (3) 人 (3)
 合 技 脇 固 鈎 連 腰 上 四 方 体 落 内 股 跳 卷 达
 大将 ○ 駒 ○ 小 角 ○ 井 金 前 田 (3)
 井 (5) 田 (5) 原 (4) 上 (4) 子 (3) 田 (3)

点取試合

六月三十日 於 綱町道場

本塾対日本钢管对抗試合

大将 ○ 渡 小 竹 ○ 鈴 ○ 島 ○ 南 ○ 高
 辺 倉 木 内 田 田 原 田 原
 明 英 右 一 章 靖 幸 健 幸 人 (3)
 治 夫 (4) 宜 (4) 男 (4) 平 (3) 与 (3) 雄 (3) 人 (3)
 合 技 脇 固 鈎 連 腰 上 四 方 体 落 内 股 跳 卷 达
 大将 ○ 駒 ○ 小 角 ○ 井 金 前 田 (3)
 井 (5) 田 (5) 原 (4) 上 (4) 子 (3) 田 (3)

参加者

全日本大会合宿（大学）
 六月三十日（日）～七月七日（日）於 綱町道場
 全日本大会に備えて一週間の合宿を行う。参加者二十一名。合宿中連日清水師範のご指導を得、又中野先生はじめ多数の諸先輩が熱心に顔を出される。

大将 小 鈴 渡 福 南 高 鈴 鈴 新 原 原 本
 倉 木 木 木 木 木 木 武 文 (3) 先 锋
 英 一 靖 健 幸 人 (3) 治 (3) 送足払
 夫 (4) 男 (4) 与 (3) 引 分 引 分 大外卷込
 大内刈 大内刈 大内刈 大内刈 大内刈
 上四方 内股 横四方
 大将 野 江 渡 辺 渡 辺 渡 辺 長 谷 川 佐 藤 (3) 佐 藤
 口 森 渡 辺 渡 辺 渡 辺 本 (3) 本 (3) 日本钢管

四年 山際正明、小野喜也、鈴木一男、伊東弘人、野

村幸司

三年 小倉英夫、竹内右宜、福田靖与、伊藤照彦、岡本信義、星野敬、島田章平、鈴木正毅

二年 渡辺明治、阿部大助、橋本光藏、檜山治

一年 高田幸人、広瀬嘉嗣、新原武文、南健雄

日課 起床 七時
体操 七時四十五分
朝食 八時十分

稽古 四時～六時

夕食 七時
門限 九時

消燈 九時半

第六回全日本学生柔道優勝大会

七月七日(日)於 東京都体育館

全国各地から代表二十校が集つて行われ、東京大会とはメンバーを一新して出場した塾は、一回戦で苦戦ながら同志社大学を破り、二回戦で東京大会の準優勝校中央大学と対戦した。塾の不利が予想されていた試合であったが捨身の戦法が功を奏し、小倉、福田、新原と貴重

なボイントを獲得、中央大渡辺選手負傷欠場も塾に幸いにして大勝を収めた。

準決勝は早大と当ったが、塾は早慶戦を意識しそぎて冷静を欠き、早大の術中に陥った感があり、一方の早大は昨年、東京大会に於て3対1、早慶戦に於て5対4で塾に勝利を奪われた雪辱を期し、闘志に燃えて試合に臨み、塾は一点差で苦杯を喫した。

但し、戦後第六回にして、関東の三強、全日本屈指の強豪と謂われる、日、中、明の一角を塾が倒し、初めて全日本第三位に入賞したことは特筆に価し、新人の精神的奮起により、塾柔道部史に輝かしい一頁を加えた奮闘振りであった。

第一回戦

本塾 4 — 3 同志社大

大将 ○ 渡辺明治(4)	先鋒 ○ 小倉英夫(4)	南 健雄(3)	合 捏 ○ 石田寅生(3)
○ 阿部大助(3)	○ 高田幸人(3)	○ 優勢	新田富三男(3)
○ 上四方	○ 福田靖与(3)	跳 腰	春木宏己(3)
○ 大内返	○ 小合	合 技	小合洋一(3)
○ 上松修己(3)	○ 原正弘(4)	新	新田寅生(3)
木昌司(4)	木正弘(4)	三	三

		第二回戦									
		先鋒					本				
		準決勝戦					準決勝戦				
九	位	大將	先鋒	大將	○渡	○新	大將	○渡	○福	○新	先鋒
1	級	明大	南(3)	小阿	○福	○新	高	○福	○高	○新	南(3)
斎藤	一位	渡(4)	阿(4)	田(3)	田(3)	原(3)	原(3)	田(3)	田(3)	原(3)	南(3)
邦	一位	辺倉	部(3)	田(3)	田(3)	原(3)	原(3)	田(3)	田(3)	原(3)	南(3)
引分	早大、三位	引分	大外刈	上四方	引分	優勢	引分	優勢	優勢	不戰	引分
田	早大	大將	大外刈	上四方	引分	優勢	引分	優勢	優勢	不戰	引分
卷	三位	本塾	佐坂	○奥	○三	長平	北早	中太	太渡	浅鉢	今中
基	拓大	佐坂	奥	三	長平	北早	中山	田田	辺野	木川	今中
志	七 月 九 日	元村	拓大	宅谷	本井	芳勝	伸喜	太	太渡	浅鉢	今中
一郎剛	三雄行	一郎剛	三雄行	一郎剛	三雄行	一郎剛	三雄行	一郎剛	三雄行	一郎剛	三雄行
(4)	(4)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)

		丙	六	七	八						
		2 ○ 田	1 ○ 組	6 ○ 田	5 ○ 閔	4 ○ 池	3 ○ 野	2 ○ 仙	1 ○ 閔	4 ○ 吉	3 ○ 吉
北	北	北	北	根	閔	池	野	仙	閔	吉	吉
坦	坦	東	和	通	忠	和	通	泰	吉	祐	祐
上	体	坦	修	彦	志	泰	修	忠	吉	祐	祐
西方	落	大	田	閔	池	野	仙	泰	吉	祐	祐
堀	草	島	北	根	田	口	石	重	吉	平	吉
内	場	拓	太	東	和	通	惠	穂	吉	永	木
喜	賢	太	郎	坦	修	彦	志	忠	永	木	征
一	郎	雄	一	郎	坦	修	彦	雅	吉	吉	吉
								昭	祐	祐	祐
								彦	公	公	公
								彦	征	忠	忠
								彦	朗	朗	朗

乙

五

1 ○ 白	組	9 8 7 6 5 4 3 2 1	級	12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 ○ 伊 伊 野 野 野 小 宮 宮 田
川		寺 野 沢 島 岸 岸 岸 岸 沢		藤 藤 田 田 田 島 本 本 北 北
		基 根 左	保 左	忠 謙 庸 一
一		之 郎 内 潔	夫 内	宏 一 三 郎

製 紋 固	体 裂 姿 固 引 背 負 投 大 外 合 大 外 引	大 外 刈 小 内 刈 引 分 橫 四 方 合 大 外 刈 送 足 扒 大 外 刈 送 足 扒 大 内 返
-------	-----------------------------	---

小	白 小 中 福 西 山 中 宮 峰	○ 岩 峯 伊 中 伊 野 小 西 宮 遠
金	川 寺 野 沢 島 田 川 本 岸	倉 岸 藤 沢 藤 田 島 松 本 藤
康	基 根 左 精 正 定 保	範 善 忠 幹 謙 庸 克 一 紀
宏	一 之 郎 内 潔 一 輝 義 夫	行 助 宏 進 夫 一 三 朗 郎 雄

甲

四

6 ○ 安	5 ○ 安	4 宇	3 松	2 松	1 松	組	8 ○ 松	7 松	6 松	5 ○ 松	4 渡	3 勝	2 渡	1 ○ 渡	級	7 ○ 渡	6 ○ 渡	5 白	4 ○ 白	3 ○ 白	2 白		
田	田	木	吉	吉	吉		吉	原	原	原	辺	田	辺	辺		辺	辺	川	川	川	川	川	
讓	繁						省	省			軍	正	祥	芳		照							

体 落	大 内 刈	合 技	大 外 落	優 勢	跳 腰		小 内 刈	引 分	大 外 刈	体 落	体 落	引 分	引 落	体 落		大 外 刈	大 外 刈	崩 上 四 方	崩 上 四 方	逆 十 字	小 内 刈
-----	-------	-----	-------	-----	-----	--	-------	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	--	-------	-------	---------	---------	-------	-------

安	安	安	宇	松	長	谷		下	松	岩	永	松	渡	勝	梅	○	土	梅	渡	竹	滝	山
西	藤	田	木	津	隆	川		村	吉	本	田	原	辺	田	田		屋	沢	辺	田	沢	田
康	大				隆	雄		省	謙	武	軍	正	祥			欣	照	安	勝	為		
貞	助	讓	繁	介	一			裕	三	三	郎	次	男	三	弘		司	潤	男	民	博	一

三

9	○	野	中	安	大外刈
8		口	村	田	引分
7		口	宏	重	背負投
6	○	薄	信	水	
5		石	興		
4		佐	克		
3		藤	輔		
2	○	塚	進		
1		義			

第六回全国高等学校柔道大会

八月三日・四日 於 天理市天理大学体育館

全国都道府県代表チームが参加して行われ本塾高校は予選三校リーグで盈進商高(広島)と共に一勝一分で勝点五であつた為、抽選を行つた結果、盈進商高が決勝トーナメントに出場することとなつた。

三校リーグ戦

○	植	慶應高校	3	—	2
○	植	高岡高校(富山)	3	—	2
○	植	高岡高校	3	—	2
○	植	高岡高校	3	—	2
○	植	高岡高校	3	—	2

○	○	○	○	○	○
原	友	佐	石	飯	薄
田	藤	塚	野		
義	彰	紀	信		
章	(2)	進	克	夫	

本塾対神奈川県警察対抗試合

八月十九日 於 綱町道場

○	佐	内	市	本	先鋒	大将
○	佐	内	市	本	先鋒	阿部
○	佐	内	市	本	先鋒	原清
○	佐	内	市	本	先鋒	隆切
○	佐	内	市	本	先鋒	大将

○	八	塚	九	二	二	盈進商高(広島)
○	八	塚	九	二	二	盈進商高(広島)
○	八	塚	九	二	二	盈進商高(広島)
○	八	塚	九	二	二	盈進商高(広島)
○	八	塚	九	二	二	盈進商高(広島)

本年の夏季遠征は昭和十四年以来の九州地方に、清水、朝飛両師範引率のもと、四段五名、三段二十一名、二段四名、マネジャー三名計三十五名にて行う。一行は八月二十二日東京出発、大阪、大分、延岡、宮崎、鹿児島、熊本、博多に於て試合を行い、五勝一敗一引分の好成績で三十日博多試合後、同地に於て解散した。

尚遠征中、一行は各地に於て、地元三田会、柔友会の諸先輩、柔道連盟、会社柔道部部員、父兄等の盛大な歓迎を受けた。試合成績は次の通り。

城徳祐	檜山	島健治	引分
○新南	○高原	○武健	○引分
○福田	○幸人	○文雄	○引分
○阿木	○大助	○巴投	○引分
○竹内	○右宜	○腰投	○引分
○鈴木	○大男	○大外刈	○引分
○大倉英夫	○大助	○優勢	○引分
○大将	○大将	○大將	○引分
○駒井	○角萩	○前橋	○諏訪間
○高峰	○峰田	○井上	○本田
○田原	○田原	○上原	○子

八月二十一日～三十日

九州遠征（大学）

対鐘紡・大阪警視庁連合軍

八月二十三日（金）於

鐘紡淀川工場

本塾

先鋒○草野 計重(2)

支釣込足先鋒 大外落

背負巻込 優勢

送襟絞 小外落

引分 優勢

引分 背負巻込

引分 送襟絞

引分 小外落

引分 優勢

引分 背負投

引分 大外落

引分 崩上四方

引分 鈎込腰

引分 崩上四方

引分 鈎込腰

引分 崩上四方

引分 鈎込腰

引分 崩上四方

大阪警視庁連合

○小風	○宮土	○湯高	○山勝	○辺	○大山	○大辻	○小竹	○梅津
○川間	○崎本	○本浅	○田本	○本	○本	○本	○松武(2)	○築(2)
(3)	(3)	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)

阿城福石新島岡南佐高檜檜内橋市伊伊鈴渡大
 部島田原原田本藤田田山山田本橋橋藤藤木辺矢
 大徹靖勝武章信健幸恭光英照正東
 助祐与克文平義雄紘人治弘藏児彦毅洋
 (3)(3)(3)(3) (3)(3)(3)(3) (3)(3)(3)(3) (3)(3)(3)(3)
 引内股優横四方引引引跳横四方優引引合優内合引合
 分股勢勢四方分分分腰四方勢勢分分技勢股技分技
 奥瀬浜萩安久保高加梅木脇○脇○市水宮宇都宮
 田田田田原原部浦藤藤川畑園○川○市水宮宇都宮
 (4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(4)(3)

大將 鈴木一男(4) 稲田 渡辺明治(4) 宜詢(3)
 小倉英夫(4) 竹内右(4) 訓(3)
 大阪府警は四段級の強豪が四名程抜けていたが殆んど
 ベストメンバー。連合軍は鐘紡選手の失点が大敗に結び
 ついていた。試合終了後昼食、市内見物の後、大阪港よ
 り別府航路「にしき丸」にて別府に向う。船中泊。
 對全大分軍
 先鋒 本塾
 斎齊津平近草野(2) 于 大分県警察会館道場(武徳殿)
 高校生十二名、警察十三名を主力とした全大分軍と三
 十名の勝抜き試合、大將以下四名を残して本塾の勝。
 先鋒 上杉(2)
 引分 全大分
 片羽絞 横四方 小外落 佐佐保(2)
 佐賀(2) ○大波多(2) ○大波多(2)

合 橫 合 鈎 痛 引 引 痛 引 崩 引 扌 引 優 引 引 引 引 引
四 方 技 連 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分

先鋒	大將
高 檜 大 大 岡 ○ 岡 内	鈴 小 竹 渡 稲 伊 岡 橋 阿 阿
田 山 矢 矢 本 本 本 田 本	木 倉 内 辺(明) 田 東 本 本 部 部
(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)	(4) (4) (4) (4) (3) (3) (3) (3) (3)
塾	(4)

単

於	八月二十五日(日)	於	八月二十五日(日)
優勢	引分	引分	引分
大外刈	内股	内股	合
払腰	卷达	卷达	技
優勢	大將○溝	大將○溝	
引分	溝	溝	
優勢	松	松	
十字綱	栗	栗	
引分	大	大	
先鋒	村(4)	村(4)	
旭化成	田(4)	田(4)	
森(2)	藤(2)	藤(2)	
谷(2)	手洗(2)	手洗(2)	
平田尾(2)	平田尾(2)	平田尾(2)	
松谷(2)	松谷(2)	松谷(2)	
中谷(2)	中谷(2)	中谷(2)	
武藤(2)	武藤(2)	武藤(2)	
○○	○○	○○	

先鋒	○草野(2)	本	大將	○福城石新南佐高
内伊市津近草	田藤橋田藤野		小竹渡阿福田島田原田原田	(4)(4) (4) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)
引合跳腰返	大外返出足払	大外刈先鋒	引引引内股分	引引引大内刈合技
分技腰		1	分分分股分	分分分合技
大將	松伊岩岩原(4)	増田	○堀重河兒佐	引引引引分
三久富川清伊全宮崎	村義永端水東	(旧武徳殿)	田藤崎崎(4)	田光野玉玉(3)藤(2)

先鋒	○草野(2)	本	大將	○檜木(正)鈴木
○近藤野(2)	本	大將	○竹渡稻城福石高○佐新○橋○南○岡○大伊○檜木(正)	
倉内	八月二十七日(火)於鹿兒島柔道会館	大外刈(明)	○田島田田田藤原本	○本矢東山本
合合技	19	引分	引分	引分
技	2	大外卷込	大内返	横四方
先鋒		大内返	引分	崩上四方
大將		大外刈	横四方	崩上四方
今川荒日立田吉伊仙川佐長山別羽未博		合技	横四方	引分
村崎川高元上本東波口藤崎府口良		跳腰	崩上四方	引分
菊有村(2)(高生)	全鹿兒島	大將	大外刈	引分

大辭

八月二十
對全熊本軍
先鋒○草野(2)
本塾
岡伊佐大新市南高内橋鈴渡齊伊佐々木津田柳藤近草野(2)
本藤藤矢原橋田田木木(正)辺(東)(3)
(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)

10 (未) 於 横内股 | 内股 移腰 引分 優勢 引分 鈎込腰 大外刈 内股 |
四方 内股 大内返 大外卷込 跳腰 分股 分股 大外刈 引分

西江栗大廣飯平市小神酒荒荒宮立石島山大全熊本
村口山島瀬田松原山谷井木木木村山本田縣村(2)
(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)

		第三回戦				第四回戦				第五回戦									
		○堀		○堀															
○	梅原	○	堀	○	林	○	林	○	堀	○	林	○	堀						
梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A						
2 優勢	足 1	内 手	股 2	優 勢	足 1	引 分	内 手	股 2	優 勢	足 1	横 四方	跳 腰	横 四方						
2 優勢	足 1	内 手	股 2	優 勢	足 1	引 分	内 手	股 2	優 勢	足 1	引 分	横 四方	厚 木 高 B						
永岡	梅原	江口(2)	佐藤(2)	粹田(2)	日大高A	須坂	江口(2)	佐藤(2)	粹田(2)	日大高A	須坂	野島(2)	市須工A	吉田(2)	山田(2)	江田(2)	成吉田(2)	厚木高 B	大山(2)

		第一回戦				第二回戦				第三回戦				第四回戦					
		○林		○堀		○永		○清		○永		○大		○清		○永		○清	
○	清	○	水	○	永	○	永	○	大	○	永	○	大	○	清	○	水	○	水
梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A	梅原	高A
3 腰 0	引 腰 0	引 分 0	背 負 投 0	1 0	1 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0	引 分 0	腰 0
熊沢	芹沢	鶴工	手塚(2)	沖津(2)	島崎(2)	日大高B	荒井	小林	鶴岡	桜井	小沢	桐山	秦野高 B	芹沢	小沢	桐山	秦野高 B	大熊	清水

		準決勝戦		決勝戦		慶応高校 B		慶応高校		大熊	
		○永岡	○清水	○大熊	○大熊	慶応高校 B	慶応高校	慶応高校	慶応高校	○大熊	大熊
○植	○阿	○植	○植	○植	○植	慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校	○植	大熊
村(健)	部	村(剛)	村(健)	村(剛)	村(健)	健次郎	剛太郎	智庵	大熊	○永岡	○清水
慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校					○永岡	○清水
3 大内刈	3 横四方	3 内股	3 体落	3 横四方	3 支釣足	1 大外刈	1 大外刈	1 縦四方	3 大外刈	3 大外刈	3 崩上四方
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	—	—	—	—	—	0 0
斎藤立野高 A	阿部	矢俊	丸山	相原	小林	岩井	相井	洋高	伊藤	坂根	関学高
斎藤立野高 A	阿部	阿部	阿部	相原	林彻	原彻	洋高	高	伊藤	伊藤	今朝

		準決勝戦		決勝戦		慶応高校 A		慶応高校		阿部	
		○植	○植	○植	○植	慶応高校 A	慶応高校	慶応高校	慶応高校	○植	阿部
○植	○古	○植	○植	○植	○植	慶応高校 A	慶応高校	慶応高校	慶応高校	○植	阿部
村(剛)	部	村(剛)	村(健)	村(剛)	村(健)	阿部	阿部	阿部	阿部	○植	植村(剛)
慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校	慶応高校					○植	植村(健)
3 袈裟固	3 袈裟固	1 引分	1 引分	3 大内刈	3 優勢	3 崩上四方	2 横四方	2 引分	2 横四方	○植	阿部
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	—	—	—	—	○植	阿部
市川中工 B	市川中工 B	森田清野	森古	森岡佐初	吉平	日大高 B	南高 A	千也	有馬	杉村(剛)	小野里
市川中工 B	市川中工 B	森田清野	森古	森岡佐初	吉平	日大高 B	南高 A	千也	有馬	杉村(剛)	小野里

		第一回戦		第二回戦		第三回戦		第四回戦		準決勝戦		決勝戦	
		○森	田浩典	○森	田浩典	○森	田浩典	○森	田浩典	○森	田浩典	○森	田浩典
		慶応高校	仁	慶応高校	古森	慶応高校	古森	慶応高校	小林	慶応高校	古森	慶応高校	古森
		3 崩上四方	— 大外刈	2 横四方	— 跳腰	2 出足払	— 痛負	2 大外落	— 合技	3 横四方	— 脇固	3 優勢	— 松腰
		0 平川切	0 高梨切	1 小川切	0 鎌倉高A	1 鳥居切	0 広崎切	1 逗子開成高B	0 佐藤切	0 日大藤沢高	0 兵頭切	0 竹間切	0 高林(2)
		0 崩上四方	0 大外落	0 横四方	0 跳腰	0 出足払	0 痛負	0 大外落	0 合技	0 横四方	0 脇固	0 優勢	0 松腰

		第一回戦		第二回戦		第三回戦		第四回戦		準決勝戦		決勝戦	
		○岩	慶応高校	○岩	慶応高校	○岩	慶応高校	○岩	慶応高校	○岩	慶応高校	○岩	慶応高校
		中野田本	慶応高校	中野田本	慶応高校	中野田本	慶応高校	中野田本	慶応高校	中野田本	慶応高校	中野田本	慶応高校
		2 引分	— 絞技	2 大外返	— 大外刈	2 合技	— 引分	2 合技	— 優勢	3 大外刈	— 合技	3 優勢	— 内股
		0 佐々木	0 大竹	0 都築	0 Y	0 青木	0 木上	0 月野	0 阜月	0 江南高A	0 島村	0 工藤	0 法政二高A
		0 高	0 築	0 都	0 Y	0 木	0 木上	0 月野	0 阜月	0 江南高A	0 島村	0 工藤	0 法政二高A
		0 高	0 築	0 都	0 Y	0 木	0 木上	0 月野	0 阜月	0 江南高A	0 島村	0 工藤	0 法政二高A

第二回東京都柔道大会

十月六日 於 講道館

第二回東京都柔道大会が十月六日、講道館で挙行されたが、ドイツ人選手一名を含めた目黒区が決勝で前年一位の世田谷区を破り初優勝した。目黒区チームには同区在住の本塾高校二年生、植村剛太郎・健次郎兄弟が選手として活躍し、弟、植村健次郎二段は同大会の技術優秀五選手の一名に選ばれた。

決勝戦

日能劔	○植村(健)2(塾高)	○佐藤(2)	○植村(剛)(3)(塾高)	○竹内(4)	小林(4)	吉田(5)	金谷(4)	五十嵐(3)	諸泉(2)	田島(3)	田島(3)	高田幸人(3)	高田勝克(3)	福田靖与(3)	福島大助(3)	○阿部大助(3)	○渡辺内宜(4)	○竹内右宜(4)	○倉英夫(4)	大将	○阿部大助(3)	○笠木(4)	○堀江(4)	○笠木(4)	○堀江(4)	○柳生(3)	○伊藤(3)	
鉤込腰	大外刈	返技	引分	引分				石橋(2)				小外刈	内股	内股	内股	支鉤込足	大内刈	大内刈	引分	引分	大将	松尾(4)	松尾(4)	○芝崎(3)	○池田(3)	○池田(3)	○柳生(3)	○伊藤(3)
○有原劍												内股透	返技	返技	返技													

本塾対関西大学対抗試合

十月十日(木)於 綱町道場

先鋒 佐藤	本塾	5	—	7	関大
紘(3)	弘腰	先鋒	○山	田(3)	

が出席した。

三選手は神奈川県予選で国体選手ベスト7に選ばれたもので、神奈川県チームは九月八日群馬県沼田市武道場で開かれた国体高校柔道関東地区大会で六戦全勝で優勝

第十二回国体秋季大会(高校)

十月二十六日～三十日 於 静岡県草薙体操館

第十二回国体高校柔道神奈川県代表として本塾高校二年生、植村剛太郎三段、植村健次郎二段、阿部智応二段

し国体に出場したものである。(神奈川、群馬、埼玉、茨城、栃木、山梨、千葉の関東七県が出場し、神奈川チーム全勝優勝、千葉チーム五勝一敗で第2位、群馬チーム四勝二敗で第3位、4位、5位の埼玉、茨城チーム迄が国体に出場権を得、栃木と山梨チームが失格) 十月二十七日に試合が行われた静岡国体では神奈川チームは第一戦岐阜チームと対戦5対0で勝ち進んだが、第二戦に於て優勝チーム福岡に2対1で敗退した。

神奈川 1 — 2 福岡

先鋒 植村(健) (塾高) 引分 先鋒 吉村

山本 (智) (塾高) ○瓜生

植村(剛) (塾高) ○古賀

大将 ○佐藤 (智) (塾高) 内股 ○古賀
返技 大将 後藤

早慶戦第一次合宿(大学)

十月二十三日(木)～十一月一日(土)

於 綱町道場

合宿者氏名

四段 山際、鈴木(一)、竹内、小倉、渡辺(明)
三段 伊東、福田、岡本、稲田、伊藤、鈴木(正)、城

島、島田、松吉、豊永、阿部、檜山、橋本、石田、大矢、内田、佐々木、高田、新原、南、広瀬、齊、渡辺(東)、佐藤(絃)、市橋、押切、内、津田、近藤、川上、岩上、福原、奥山、清水、早川、山口、鈴木(孝)
合宿中、清水師範も数回道場に泊り込みになられ、通いの朝飛師範、又中野先生始め数多く顔を出される先輩諸氏を含め熱の入った稽古を行う。

秋季大会

十月二十七日(日)於 綱町道場

午前九時、段外者紅白試合を開始。十二時三十分段外者の部終る。昼食後、恒例の普通部・中等部戦を開始。

勝抜戦は普通部2-6中等部、点取戦は普通部3-6中等部で中等部は旺盛な闘志を発揮して完勝した。続いて昨年迄とは趣旨を変えて、先輩対現役(大学生)の勝抜戦を行つた。多数先輩の御参加に依り好試合続出せるも遂に学生軍に凱歌が挙つた。午後四時無事大会終る。
午後六時より恒例の活殺法研究会が成毛先輩の御指導

の下に行われた。
段外者紅白試合

紅

先鋒

○ 池 鈴	○ 川 来	○ 来 三	○ 八 野	○ 野 田	○ 山 植	○ 太 江	○ 江 江	○ 江 石
田 木 木	木 口 条	条 条 辺	田 原 原	原 卷	田 村 田	中 中 中	中 中 中	井
明 征 (善)		忠 莞 基			勝			
彦 彦		朗 爾 志			慎 朗			

優 引 優 裂	引 大 内	大 裂	引 大 外	大 外	引 橫 四	崩 上 四	引 浮 浮	引 分
勢 分 勢 固	固 分	返 固	分 固	刈 分	方 分	方 四	腰 四	腰 分

先鋒

○ 村 中 吉 吉 斎 滝 滝 平 河 河 迂 迂 迂 酒 奥 竹 荒 德	白
上 野 永 永 藤 沢 沢 沢 岡 合 合 本 山 本 尾 野	
敏 誠 緑 龍 真	
忠 雄 一 郎 一 次	

○ 大 福 福 福 川 中 中 田 小 小 長 長 長 長 池 池 仙 稲 添 迂 永 池 池	
石 沢 沢 沢 上 川 川 北 島 野 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	
左 文 正 庸 之 東 通 重 篤 俊	
内 彦 輝 垣 三 孝 彦 泰 励 穂 三 昭	

引 裂 合 優 引 支 送 内 引 引 体 内 扌 扌 扌 扌 小 外 裂 引 分	
分 固 技 勢 分 足 药 股 分 分 落 股 腰 腰 分 刈 固 分 外 刈 分 大 内 返	
足	

○ 岩 岩 武 滝 峰 峰 勝 勝 西 野 野 伊 中 西 関 椎 椎 沢 斎 斎 大	
倉 田 沢 岸 岸 本 本 島 口 口 藤 沢 松 根 名 名 田 藤 藤 藤 藤 島	
範 勝 保 杉 和 勇 治 郎 良 拓 太 郎	
行 博 夫 雄 潔 志 修 徹 平	

○ 渡渡薄永中中中山山管松○○安岡岩大久保○○山小野梅
 辺辺田村村本本野尾尾尾西田本保田寺寺田沢
 芳信武重隆 隆康謙 一精基
 和興郎之章任 介真茂三 清一之潤

合優引引引合大崩内引引跳跳釣引後小外大外足優大外払腰
 技勢分分分技刈上四方股分分腰腰腰分腰外刈返外刈返勢分腰

○ 原鈴飯松松鈴宇津長山山渡梅○○下宮宮宮中中中
 田木野原吉木木谷川口中辺田田村村本本野野
 紀軍省 雄昭正 定義 根二郎
 進健夫次三 繁一彦男弘裕

勝抜試合 大將	先鋒○酒 普通部	普通部對中等部对抗戰 点取試合	大將○佐藤 佐藤
峰川野添稻齋八荒江平吉辻山三酒			
岸上口野田藤田尾中岡永 田辺本			

3 引引大内返上四方引分引分痛引分 分分返分分分分	巴投 裂裂固 釣達腰	6 先鋒	合技 大外返 大將
大將			
斎福池○○小駒仙中吉池來河○○鈴澁野中等部			
藤沢田根川崎石野田田(明)			

勝抜試合

先鋒

普通部

大將	野	川	添	峰	稻	荒	田	酒	江	吉	平	山	辻
○													
口	口	上	野	岸	藤	尾	卷	本	中	永	岡	田	

大將	優 優 引 引 優 引 引 優 大 内 返 引 反 体 引 引 分 勢 勢 分 分 勢 分 分 勢 分 分 力 技 落 分 分											
	内	返										
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○												

先鋒

中等部

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											

全日本東西学生柔道対抗試合・全日本

学生柔道選手権大会

十一月九日・十日 於 大阪府立体育会館

本塾より小倉英夫四段、渡辺明治四段が東軍選手に選ばれ参加した。

東西対抗

東

軍

15鋒 小倉(4)

横四方 15鋒○井 上(4)(天理大)

「小倉巴投に対し井上左大外大内の対戦 三分頃井上の左大内刈小倉半身に倒れてよく残すが井上のボイント。後半井上は小倉の体崩れからそのまま横四方に。」

(雑誌「柔道」(川村楨三記)より)

東軍不戦3名を残して優勝。

選手権大会

第二回戦

小倉	英夫(4)	優勢
渡辺	明治(4)	優勢
○		井
八		上(4)(天理大)
木(4)		木(4)(同大)

慶應高校対学習院高校対抗試合

十一月十六日 於 学習院

点取試合

先鋒														先鋒	勝
○梅	中	中	長	村	永	○	○	○	管	○	大	滝	○	○	水
田	田	川	川	田	上	岡	藤	田	田	島	澤	本	田	本	杉
弘	合	引	輝	孝	忠	昭	尾	北	野	島	勝	謙	拓	三	弘
分	合	技	巴	技	内	股	義	隆	太	勝	博	三	太	郎	雄
引	引	分	分	技	股	先鋒	輔助	介	坦	茂	任	合	引	合	合
足	足	大外刈	大外刈	縦四方	縦四方	背負投	大將	大外刈	大外刈	釣込腰	釣込腰	織袋固	引	技	大外刈
垣	宮	宮	宮	鈴	鈴	○鈴	鈴	手	津	菊	山	目	堀	木	先鋒
田	岡	杉	木	立	木	立	木	山	島	根	山	黑	垣	木	1
院	院	院	院	院	院			田	田	向	地		田	院	10

勝抜試合

慶應高校

○ 梅 中 中 長 村 永
 田 田 川 川 田 上 岡
 正 之 俊 昭
 弘 輝 孝 忠 昭

先鋒

引 合 引 合
 分 技 分 技

先鋒

○ 鈴 鈴 ○ 鈴
 稲 宮 宮 垣
 垣 田 嶺 田
 杉 木 木 木

学習院

慶應高校

1 | 1
先鋒

学習院

選手　四段五名、三段二十二名、二段三名、マネジャー二名、計三十二名で早慶戦最終合宿を行う。

合宿者氏名

四段　山際、鈴木(一)、小倉、竹内、渡辺(明)
 三段　福田、稻田、岡本、城島、島田、鈴木(正)、伊藤、阿部、豊永、檜山、橋本、石田、内田、大矢、高田、新原、広瀬、渡辺(東)、佐藤、市

於 綱町道場

十一月十七日(日)～二十四日(日)

(点取試合は一年と三年の有級者にて、勝抜試合は一年の有級者にて行う)

早慶戦第二回合宿

○ 渡辺 正男
 宮 本 定義
 大久保 一清
 宮 本 渡辺
 岩 本 岩 本
 永 田 永 田
 三 謙 三
 勝 本 勝 本
 杉 雄 杉 雄
 武 一 郎 武 一 郎
 牛 島 牛 島
 津 向 津 向
 菊 地 菊 地
 山 黒 山 黒
 堀 目 堀 目
 送織紋

○ 堀 目 黒
 堀 目 黒
 菊 地 菊 地
 山 黒 山 黒

橋、
斎

二段 草野、近藤、谷崎
マネジャー 小野、野村

合宿中、十一月十八日に成毛先輩を通じて試合を申込まれた国学院大学と、十九日に清水師範の母校日体大と練習試合を行う。又早慶戦前日の二十三日には塾内月次試合をとりおこなった後、早稲田との交歓会、道場での記念撮影を行い、清水師範朝飛師範、山際主将より明日の試合に臨む注意を受ける。試合当日二十四日は、十時半清水、朝飛両師範お見えになり、負傷している選手を人々々々呼ばれてかねて用意の純白のサラシで負傷個所を巻いて頂き、恒例の寿司にて昼食の後十二時半バスにて試合場講道館に向う。なお合宿中例により多数の先輩が来場され激励を受けた。

本塾対国学院大学対抗試合

十一月十八日(月)於
綱町道場

本塾對國學院大學對抗試合

有相田阪棚芽百久森○中佐久間猪股内井子村田治惣山角切秀西両末
田川中本町野田保島○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)○(2)

大將 竹内右宜(4) 引分 大將 湧美(4)

本塾対日体大对抗試合

第一試合 十一月十九日(火)於 日体大柔道場

	稻 豊 佐 佐 檜 齋 広 広 近 谷 草	稻 豊 佐 佐 檜 齋 広 広 計 重(2)	草 野 野 計 重(2)	大 将 漢
内	稻 豊 佐 佐 檜 齋 広 広			
田	田 永 藤 藤 山 濱 濱 藤 崎 野			
恭		秀 一 郎 嘉 恭 孝 太 郎		
弘	詢 勝 紘 治	(3) (3) (3) (3)	嗣 敏 (2)	(2)
背負投	引 小外掛 分 返回 分 勢 分	引 優勢 分 内股 分	小内刈 分 大内刈 分	引 優勢 分
引	引 燕 分	引 優勢 分	引 技 先鋒	
○	水 小 渡 浜 西 福 森 佐 小 ○ 吉 三 中 ○ 大 中 高			
上	野 辺 田 島 永 鼻 藤 田 田 沢 溝 林 林 崎 島			
○	水 小 渡 浜 西 福 森 佐 小 ○ 吉 三 中 ○ 大 中 高 橋 (2)			
(3)	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)			

第二試合

大將

○	高 阿 城 新 島 南 市	○	岡 橋 伊 鈴 渡
竹	福 高 阿 城 新 島 南 市		
内	田 田 部 島 原 田 橋	本	本 本 本 本 本 本
右	靖 幸 大 徹 武 章 健 英	塾	藤 木 正 東 光 照 信
宜	与 人 助 之 祐 文 平 雄 児		
(4)	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)	治 (4)	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)
優	鈞 引 引 引 優 優 大 内	5	引 崩 上 四 方 引 分
勢	達 分 分 分 勢 勢		
腰	腰 分 分 分 勢 勢		
先鋒			大 将
○	内 系 小 水 金 小 佐 林 東 日		
山	永 野 上 子 田 藤 田 体 大		
(3)	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)		

七

7 6 5 4 3 2 1
来永鈴滝中川川
条岡木沢野口口

八

9 8 7 6
中小辻山
野平田

九

5 4 3 2 1
山山徳徳岩
田田野野崎

大將○渡小
辺倉明英
治夫(4)

優引
勢分

引引引引優引送足
分分分分勢分払
吉永鈴滝中辻○川中小辻植中山奥徳
永条岡木沢野村口野平村沢田山野

大將栗矢
林作(3)

五

5 4 3 2 1
野福中川中
口沢川上沢
和左正文
志内輝彦進

丙

9 8 7 6 5 4 3 2 1
西野小大小大大大
松田島島島島島島
克嘉庸拓太郎
朗定三

六

級8吉永

添稻仙澤
野田石田
重通勇治
穂勵泰郎

引引背負引崩上
分分投分四方

返引引大外返
技分分技

足返引足
払技分払

田野福中川
北口沢川上
和左正文
坦志内輝彦

中西野伊小堀草石林
沢松田藤島池場井原
克嘉忠庸喜賢邦
進朗定宏三郎雄博健

○大添稻仙
島野田石
拓重通
穂勵泰

甲

四

乙

4 3 2 1
○ 渡 安 長 谷 山
組

5 4 3 2 1
峰 小 宮 大 渡 山 梅 岩
久

5 4 3 2 1
岸 寺 本 保 边 田 田 倉

5 4 3 2 1
照 康 雄 保 基 定 一 正 精 範

5 4 3 2 1
男 真 一 洋 夫 之 義 清 男 一 弘 行

8 7 6 5 4 3 2 1
峰 小 宮 大 渡 山 梅 岩
級

5 4 3 2 1
大 大 梅 土 土
田 田

5 4 3 2 1
石 石 沢 屋 屋
北 北

5 4 3 2 1
陸 欣

5 4 3 2 1
平 潤 司 坦

優 足 引 小 外 刃
勢 扑 分 分

内 引 引 引 大 外 送 絞 優 引
股 分 分 分 返 勢 分

5 4 3 2 1
○ 大 梅 土 土
田 田

5 4 3 2 1
石 石 沢 屋 屋
北 北

5 4 3 2 1
陸 欣

5 4 3 2 1
平 潤 司 坦

○ 渡 安 長 谷 山
宇 津 木 边 西 川

○ 岩 峰 小 宮 大 渡 山 梅
久

○ 岩 峰 小 宮 大 渡 山 梅
長 田 石 沢 沢

照 康 雄

謙 保 基 定 一 正 精

範 之 陸 勝

繁 男 真 一

三 夫 之 義 清 男 一 弘

○ 岩 長 大 梅 滝
○ 滝

○ 岩 長 大 梅 滝
勝 池

○ 岩 長 大 梅 滝
本 田

○ 岩 長 大 梅 滝
杉 東

○ 岩 長 大 梅 滝
雄 彦

審

三

丙組へ
九級
大本百稔、渡辺久三
平松義行、安藤聰、田中光治
組查
飯松松鈴中山
野原吉木村本
紀軍省正重隆
夫次三慶之章

8 7 6 5 4 3 2 1
○ 飯 松 松 鈴 中 山
尾 尾 中 中 中 边
○ 松 松 山 山 渡
○ 隆 昭
○ 介 彦

級

引 優 引 優 引 引 優

分 勢 分 勢 分 分 分

横 四 方 合 跳 返 引 体
技 技 腰 技 分 落

薄石飯永松松鈴
中

塚野田原吉木村
本

信彰紀武軍省正重
隆

興克夫郎次三慶之
章

○ 山 岡 松 管 山 赤

○ 本 田 尾 野 中 穂

○ 隆 昭 正 守

○ 章 茂 介 任 彦 守

第九回早慶対抗柔道戦

十一月二十四日(日)於講道館

この日、風邪で気遣われた塾の三段陣、元気に、各人

自己の持場を良く心得て、広瀬、市橋、檜山、南、鈴木と各一人抜いて引き分け、着実に得点を重ねた。元気な福田は二人抜いて引分け、高田も高野を内股に討ち取り塾の絶対有利に進んだが、早大の奥村は一年生ながら強く、塾の城島、橋本、新原と三人を討ち取り、阿部が引分けた。早大の副将、大将も岡本、石田と引分に終り、塾は遂に大将以下四人の不戦を残すという大勝利で昨年に続き連勝し、対戦成績三勝五敗一引分となつた。

試合終了後、道場に戻り直ちに合宿を解散、統いて祝勝会が師範、先輩、部員合せて二百数十名にて盛大に開催された。祝勝会席上では、今回の塾の圧勝は、一人二人の強者が居て味方の敗勢を覆したと云うのでもなく緒戦より終盤迄終始一貫相手早大を圧倒した試合内容は早慶戦史上始めてのものと評され、清水師範は「特に何人かの優れた者がいて勝利を得るより、全員が揃つた力で勝利を得る方が望ましいのであって今日の勝負は、その通りで実に立派な試合をして呉れた」と話されていた。

審判員 大滝忠夫、工藤一三、菊池揚二、菅沼義雄

先鋒 草野計重(2) 引分 先鋒 阿部公明(2)
本塾

早稲田

○	城渡高	○	豊福	○	伊大佐	○	島鈴	○	南南	○	内檜	○	市市	○	広瀬	○	○
	島辺田		田永		田藤		矢藤		田木		木木		田山		山山		橋橋
徹	東幸		靖照		忠章		正毅		健恭		弘治		英児		嘉嗣		
之祐	(3)洋		(3)人		(3)勝		(3)彦		(3)史		(3)紘		(3)雄		(3)弘		(3)
大外刈	引分	引分	内股	引分	引分	優勢	合技	引分	引分	優勢	引分	内股返	引分	釣込足	引分	優勢	引分

○	奥平	藤高	小瀬	安栗	山和	和長	北吉	篠谷	徳前	中木	今浜	橋					
	村本	井野	野谷	土山	下田	田谷	井武崎		間田	島暮	岡田	本					
良義	剛行	高脩	脩麿	次	行三	文	司	雄一	見夫	治宏	正雄	昭郎	爾	(2)	善	守	
(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	

五十名勝抜試合
慶應高校対国学院久我山高校対抗試合
十一月二十九日於久我山高校道場
大將 植 榊 阿 古 清 永 堀 長 森 関 清 本 柳 渡 川 佐 渡
村 原 部 森 野 熊 岡 戸 田 根 多 水 沢 辺 上 藤 佐 辺
清 智 政 義 国 秀 為 和 浩 隆 嘉 紀 久 隆 芳
隆 応 宏 久 仁 文 昭 義 夫 典 範 徹 滿 三 郎 進 和
引 分 引 分 引 分 引 分 引 分
大將
太 阪 沖 小 鶴 和 渡 楠 木 新 大 竹 服 大 金 石 松 橋 稲
田 場 宮 川 泉 辺 口 村 井 熊 内 部 木 子 黒 本 山 葉

慶應高校不戦十六名。

柳沢	杉浦	佐藤	友田	飯田	渡辺	松原	原原	薄原	○長谷川	松尾	梅尾	土屋	野田	○松尾	○松尾	吉隆介
嘉一郎	義	一潤	潤	紀芳	進輔	軍和	輔夫	次興	信雄	欣一	司	司潤				
引分	優勢	背負投	小外刈	肩固	内股	合股	技术	引势	优势	引分	縱分	引分	引分	引分	引势	内股技分
栗原	栗原	栗原	栗原(2)	神戸	松井	松井	松井(2)	高野	吉井	吉本	根下	関下	矢山	矢島	矢島	荒嶋井
大將								古根	吉田	本彻	彻	根彻	矢田	矢島	矢島	石崎彻

休み前に実施されているが、記録は残存していない。

本年度は以上の記録の他に恒例の卒業生送別試合が春